

## 鉄鋼

## 【要約】

- 内需は、2009年度は国内景気低迷による需要産業の停滞を背景に、普通鋼鋼材で前年度比▲14.5%の大幅減少となる見込み。2010年度は、政府の景気刺激策継続を背景として製造業に回復の兆しが見られることもあり、同▲3.5%と減少幅は大幅に縮小すると予想する。
- 外需は、2009年度は東アジアでの高級鋼需要が急回復していることから、全鉄鋼輸出は前年度比+8.7%となる見込み。2010年度も、東アジアの高級鋼需要が底堅く推移するため、同+4.1%と予想する。
- 粗鋼生産は、2009年度は未曾有の内需の減少を背景に、前年度比▲8.5%の96.5百万tとなり10年ぶりに1億トン割れとなる見込み。2010年度は、製造業の復調や輸出の増加から、同+1.9%と増加に転ずるが98.4百万tと引き続き1億トンには満たない水準を予想する。
- 高炉各社決算は、2009年度は急激な需要の減少に加え市況悪化に伴う在庫評価損等により、減収減益となる見込み。一方、2010年度は、需要の回復に加え、上記一過性費用の剥落により、増収増益を予想する。

## I. 産業の動き

【図表2-1】鉄鋼需給概要

【実数】		08fy	09fy	10fy	09/上	09/下	10/上	10/下
		(実績)	(見込)	(予想)	(実績)	(見込)	(予想)	(予想)
内需	粗鋼換算生産量 (百万トン)	73.4	61.2	61.7	27.0	34.2	30.3	31.4
	普通鋼鋼材消費 (百万トン)	58.2	49.7	48.0	23.5	26.3	23.2	24.7
輸出	粗鋼換算 (百万トン)	36.7	39.2	41.3	17.9	21.3	20.9	20.4
輸入	粗鋼換算 (百万トン)	4.6	4.0	4.6	1.7	2.3	2.2	2.4
生産	粗鋼換算 (百万トン)	105.5	96.5	98.4	43.3	53.2	49.0	49.4
国内向け 在庫	普通鋼鋼材 (百万トン)	5.2	5.2	4.9	4.6	5.2	4.6	4.9

【増減率】		(対前年度比)			(対前年同期比)			
		08fy	09fy	10fy	09/上	09/下	10/上	10/下
		(実績)	(見込)	(予想)	(実績)	(見込)	(予想)	(予想)
内需	粗鋼換算生産量	▲14.2%	▲16.6%	+0.8%	▲36.7%	+11.4%	+12.1%	▲8.2%
	普通鋼鋼材消費	▲9.1%	▲14.5%	▲3.5%	▲25.5%	▲1.4%	▲0.9%	▲5.8%
輸出	粗鋼換算	▲10.5%	+6.8%	+5.2%	▲16.3%	+39.2%	+16.4%	▲4.3%
輸入	粗鋼換算	▲9.5%	▲14.6%	+15.8%	▲37.4%	+15.7%	+35.1%	+2.0%
生産	粗鋼換算	▲13.2%	▲8.5%	+1.9%	▲29.6%	+20.9%	+13.0%	▲7.1%
国内向け 在庫	普通鋼鋼材	▲0.5%	+0.4%	▲5.8%	▲17.1%	+0.4%	▲0.9%	▲5.8%

(出所) 各種資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注1) 2009年度、2010年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予測

(注2) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

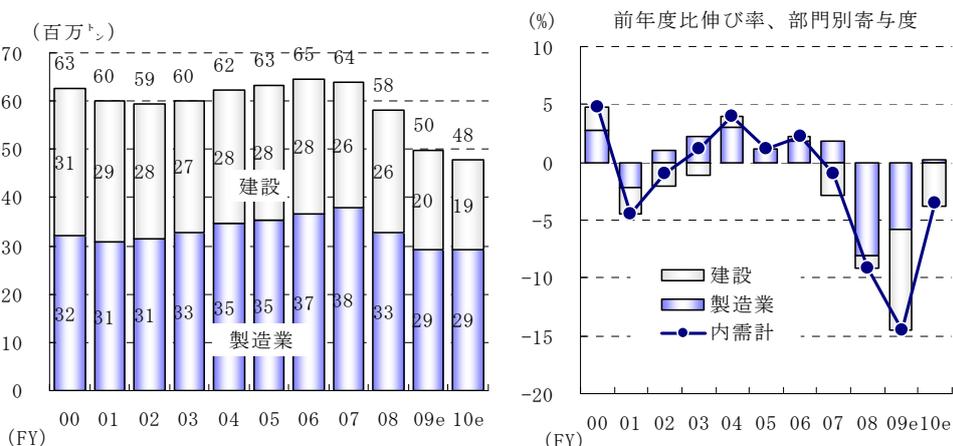
## 1. 需給動向

内需は、建設部門・製造業部門ともに低迷が続き、2009年度は大幅減を見込む

2009年度の内需は、国内景気低迷に伴う需要産業の活動水準の停滞を背景に、普通鋼鋼材で前年度比▲14.5%の49.7百万tとなる見通し。普通鋼鋼材の需要部門別内訳で見ると、建設部門は所得環境の悪化や企業業績の低迷に伴い住宅、非住宅の建築が減少し、土木も民間土木の減少を背景に、同▲19.8%の大幅減少となる見通し。また、製造業部門についても、政府の景気刺激策により下期に需要回復の兆しが見られたが、上期の落ち込みが甚大であり、減少する見通し(【図表 2-1、2、5】)。

2010年度の内需は、建設部門の落ち込みは継続するものの、政府の景気支援策継続を背景として製造業に回復の兆しが見られることから、普通鋼鋼材では同▲3.5%の48.0百万tと減少幅は縮小するものと予想する。内訳で見ると、建設部門については、民主党政権の公共事業圧縮方針を背景に土木が大幅に縮小することから、同▲9.1%を予想する。製造業部門については、新興国向けの輸出主導で自動車、産業機械等、緩やかながら需要の回復が見られ、製造業向け全体としては同+0.4%と予想する(【図表 2-1、2、5】)。なお、特殊鋼鋼材や在庫増減等を勘案した粗鋼国内見掛消費ベースでは、2010年度は前年度比+0.8%とプラスに転じると予想する(【図表 2-5】)。

【図表2-2】 普通鋼鋼材内需の推移



(出所) 鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成  
 (注) 2009年度、2010年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予測

輸出は、東アジアの旺盛な高級鋼需要により大幅増

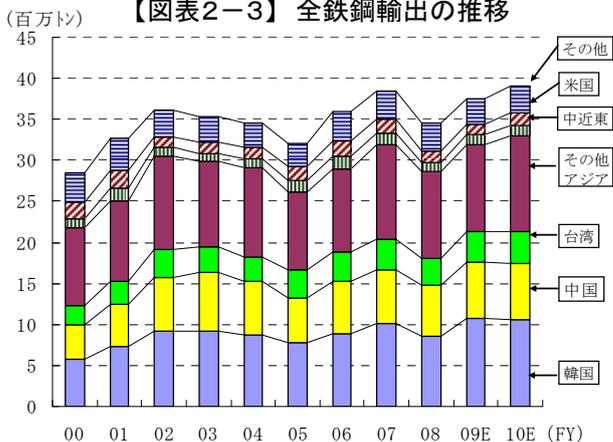
2009年度の鉄鋼輸出は、前年度比+8.7%の37.6百万t(全鉄鋼ベース)となる見込み(【図表 2-3、5】)。世界的景気悪化を背景に上期は低調に推移したが、2009年下期には中国など東アジア向けで自動車用鋼板の需要が急回復しており、下期だけで見れば約20百万t(前年同期比38.6%)と半期ベースで過去最高となる見通し。

2010年度の鉄鋼輸出は、足許の円高によりコスト競争力の減殺が想定されるものの、東アジアの高級鋼需要については底堅いと予想する。また、中国、韓国等における新規高炉建設についても、ユーザーによる認証等に数年かかることなど、日系ミルへの影響は当面軽微と推測する。こうしたことから、2010年度の全鉄鋼輸出は同+4.1%の39.1百万tと予想する(【図表 2-3、2-5】)。

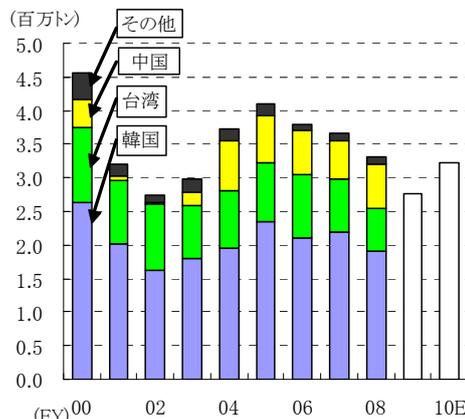
輸入は、内需低迷を背景に低調に推移する見込み

普通鋼鋼材輸入は、国内需要の減少を背景に 2009 年度は前年度比▲16.6%の 2.8 百万 t となる見通し。一方、2010 年度は、足許円高による輸入品のコスト競争力増加を背景に、普通鋼鋼材輸入は同+16.2%の 3.2 百万 t を予想する(【図表 2-4、5】)。

【図表 2-3】 全鉄鋼輸出の推移



【図表 2-4】 普通鋼鋼材輸入の推移



(出所)【図表 2-3、4】とも鉄鋼連盟「鉄鋼需給統計月報」よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注)【図表 2-3、4】とも 2009 年度、2010 年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予測

粗鋼生産は、製造業と輸出の増加から 2010 年度は反転

鉄鋼各社は 2008 年度下期以降高炉休止を含めた未曾有の減産体制が継続する中、2009 年度の粗鋼生産は前年度比▲8.5%の 96.5 百万 t と 10 年ぶりの 1 億トン割れとなる見通し。2010 年度については、製造業の立ち上がりや輸出拡大による需要拡大が見込まれ、粗鋼生産は増加に転ずるが、建設部門の下押し影響もあり、粗鋼生産は同+1.9%の 98.4 百万 t と引き続き 1 億トンに満たない水準を予想する。(【図表 2-5】)。

【図表 2-5】 2009・2010 年度の鉄鋼需給見通し

(1) 内需	(単位: 百万トン)					
	普通鋼鋼材	2008FY (実績)	2009FY (見込)	2010FY (予想)	09/08(%)	10/09(%)
建設		25.6	20.5	18.6	▲19.8	▲9.1
内 建築		18.4	13.3	12.2	▲27.5	▲8.3
内 土木		7.2	7.2	6.4	▲0.2	▲10.6
製造業		32.6	29.2	29.3	▲10.3	0.4
内 自動車		11.7	10.7	10.7	▲8.5	0.5
内 産業機械		5.3	3.8	3.9	▲27.4	3.0
内 電気機械		3.6	3.2	3.3	▲9.9	2.0
内 造船		6.4	6.2	6.1	▲2.6	▲3.1
合計		58.2	49.7	48.0	▲14.5	▲3.5
国内見掛消費		73.4	61.2	61.7	▲16.6	0.8
(2) 輸出						
全鉄鋼		34.6	37.6	39.1	8.7	4.1
内 米国		1.5	1.3	1.5	▲15.9	18.3
内 中国		6.2	6.9	6.8	10.0	▲0.3
内 アジア(除中国)		22.4	25.1	26.2	11.7	4.6
粗鋼輸出		36.7	39.2	41.3	6.8	5.2
(3) 輸入						
全鉄鋼		4.4	3.7	4.3	▲15.2	15.8
普通鋼鋼材		3.3	2.8	3.2	▲16.6	16.2
粗鋼輸入		4.6	4.0	4.6	▲14.6	15.8
(4) 生産						
粗鋼生産		105.5	96.5	98.4	▲8.5	1.9

(出所) 各種資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注 1) 2009 年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予測

(注 2) 国内見掛消費＝粗鋼生産＋粗鋼輸入－粗鋼輸出(但し在庫変動を含まず)

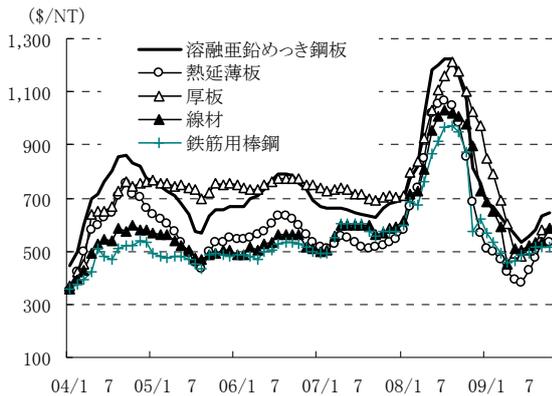
2. 市況

内外鋼材市況は弱含みでの推移を見込む

海外の鋼材市況について、米国の鋼板類価格は7月に前月上昇に転じ、これ以降毎月10%前後上昇してきたが、10月に入るとその勢いは急速に弱まっており、早くも腰折れの様相をみせている(【図表2-6】)。中国においても、月間5千万tの高水準な生産に伴い流通在庫が積みあがっており、市況は軟調に推移している(【図表2-7】)。

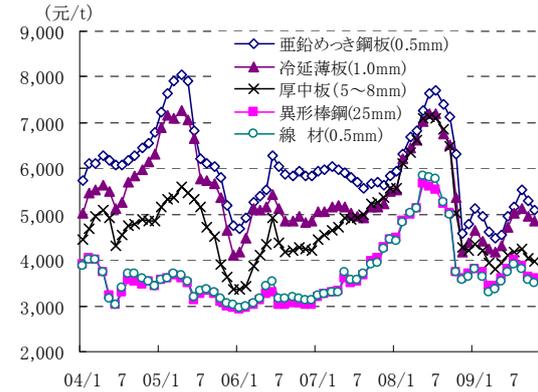
国内市況についても、内需の低迷と海外市況の軟化を背景に軟調に推移している(【図表2-8】)。今後については、国内の在庫調整が進展したことや(【図表2-9】)、製造業に需要拡大の兆しが見られること、また中国の鉄鋼需要拡大を背景とした鉄源コストの上昇も見込まれることから、鋼材市況好転の可能性も期待されよう。しかしながら2010年度については、当面鉄鋼需要の大幅な回復には至らない点を考慮すると、市況の改善幅は限定的なものに留まると予想する。

【図表2-6】 米国中西部の鋼材市況推移



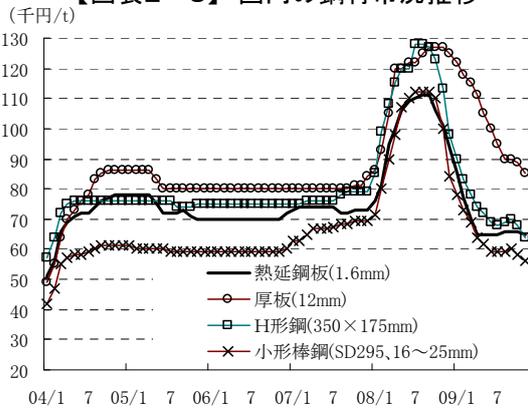
(出所) 鉄鋼連盟「海外鉄鋼市場の動き」より  
みずほコーポレート銀行産業調査部作成

【図表2-7】 中国の鋼材市況推移



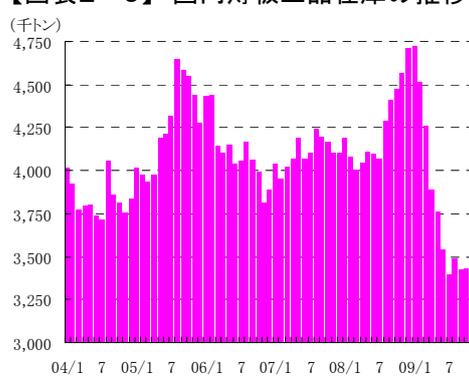
(出所) 鉄鋼連盟「海外鉄鋼市場の動き」より  
みずほコーポレート銀行産業調査部作成

【図表2-8】 国内の鋼材市況推移



(出所) 鉄鋼連盟「鉄鋼需給統計月報」等より  
みずほコーポレート銀行産業調査部作成  
(注) 月末東京安値

【図表2-9】 国内薄板三品在庫の推移



(出所) 鉄鋼新聞等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成  
(注) 薄板三品(熱延・冷延・表面処理)のメーカー・問屋・コイルセンター在庫の合計

## II. 企業業績

### 1. 2009年度見込み

需要の急減に加え、在庫評価損、キャリーオーバー費用により減収減益

2009年度の高炉大手4社合計の連結売上高は前年度比▲27.4%の9兆2,250億円、連結営業利益は同▲90.9%の1,000億円となる見込み(【図表2-10】)。

売上高は、需要業界の活動水準低下に伴う販売量の減少に加え、鋼材価格下落により、大幅減少に転じる見込み。収益面では、販売減少に加え、鋼材市況悪化に伴う在庫評価損、更に、2008年度に高値で契約した原料の未消化分の持ち越し(キャリーオーバー)負担が収益を下押ししている。高炉各社は2009年度下期にかけて、高炉の稼働率改善に伴う限界利益率の向上が見られるが、上期の赤字影響が大きく、年度の営業利益は大幅に前年度比大幅に悪化する見込みである。

### 2. 2010年度予想

需要回復に加え一過性費用の剥落により、大幅増収増益を予想

2010年度の高炉大手4社合計の連結売上高は前年度比+6.3%の9兆8,100億円、連結営業利益は同+620%の7,200億円と、増収増益を予想する(【図表2-10】)。

売上高は、製造業に需要拡大が見られている上、東アジアでの高級鋼需要が底硬いことから、販売量の増加が予想される。また、鉄源コストの増嵩もあり輸出鋼材価格についても小幅ながら上昇することが期待できよう。収益面では、2009年度に見られた一過性の費用(在庫評価損、キャリーオーバー)が剥落することを主因として、大幅に増益すると予想する。

2010年度の業績下振れリスクについては、①国内需要産業の活動水準低下(景気二番底)、②円高進行により輸出鋼材の収益性悪化、③中国の需給悪化に伴う鋼材価格の下落、の3点が挙げられよう。

【図表2-10】 企業収支動向

#### 【実績】

	(社数) (単位)	08fy (実績)	09fy (見込)	10fy (予想)
売上高	高炉大手4社 (億円)	126,998	92,250	98,100
営業利益	高炉大手4社 (億円)	10,937	1,000	7,200

#### 【増減率】

	摘要 (単位)	08fy (実績)	09fy (見込)	10fy (予想)
売上高	高炉大手4社 (%)	+ 3.7%	▲ 27.4%	+ 6.3%
営業利益	高炉大手4社 (%)	▲ 28.6%	▲ 90.9%	+ 620.0%

(出所) 各社有価証券報告書等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注1) 2009年度、2010年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予測

(注2) 高炉大手4社=新日本製鐵・JFEホールディングス・住友金属工業・神戸製鋼所

### Ⅲ. トピックス ～ 日本鉄鋼業界の競争力と今後の方向性

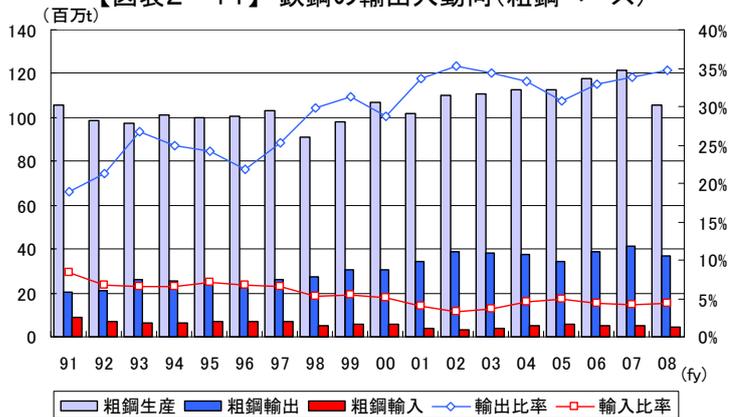
日本鉄鋼業界は益々外需依存傾向に

中長期的に見ると、人口減少、ユーザーの海外生産シフト等に伴う内需縮退は論を待たないところ。当業界の成長を考えるに際しては、今後益々グローバル戦略が重要となってくるが、当業界の国際競争力はどこにあるのか。

国内での圧倒的な競争優位の源泉は4点

日本の鉄鋼業界は、国内において圧倒的な競争力を有している。粗鋼生産約1億tに対し、輸入割合(粗鋼ベース)は約5%と極めて低く、国内市場はほぼ国産品で賄っている。特に、極めて高い品質を要求する日系自動車メーカー用鋼板には、輸入品は殆ど入り込めていない。こうした競争優位の背景は、次の4点に表されるのではないだろうか。1点目はユーザーとタイアップして築き上げた高機能素材の研究開発力、2点目はこうした素材を安定的に供給する生産管理技術、3点目は巨大且つ臨海立地でコスト競争力のある高炉の存在、4点目は製鉄から加工、販売までを自社で囲い込んだ流通構造を構築している点であろう。

【図表2-11】 鉄鋼の輸出入動向(粗鋼ベース)



(出所) 鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

海外で活かせる競争優位な点は高機能材の開発力と生産管理技術

一方、日本の鉄鋼業界の国際競争力については、こうした4点が海外でも優位性であると言えるのか、という点が鍵となろう。しかし言うまでも無く、4点目の流通構造は国内に関してのみであり、海外において優位性を有するとは言えない。また、海外では鉄鋼産業育成の観点から保護主義的な動きも見られており、中国では鉄鋼業に対する外資規制が導入され、東アジアでは近時関税引き上げの動きが見られている。こうしたことも、日系が海外で事業展開する競争力を相殺する要因となろう。

また、3点目のコスト競争力についても、近年、曹妃甸(中国)や、唐津(韓国)など、東アジア各地で大型且つ最新鋭の臨海製鉄所が新設されており、設備能力面での優位性は薄れつつある。こうしたことから、日本の競争力の源泉は、1点目の研究開発力、2点目の生産管理技術に集約されるのではないかと。

【図表2-12】 近年の東アジアでの新設投資

国名	社名	主要設備	規模	時期
韓国	現代製鉄(唐津)	第一高炉	400万トン/年(更に第二高炉建設中)	2010/1
台湾	中国鋼鉄	新高炉	250万トン/年	2010/2
中国	首鋼京唐鋼鉄(曹妃甸)	新高炉	500万トン/年(更に第二高炉建設中)	2009/10
中国	鞍鋼集団	新高炉	500万トン/年(更に第二高炉建設中)	09年稼働

(出所) 新聞報道よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

輸出のみに依存した戦略からの脱却が重要ではないか

足許は東アジアでの高級鋼の需給がタイトであり、日本からの輸出に追い風が吹いている。しかし、こうした日本国内の高炉の能力余剰を活用した輸出依存戦略は、相手国の産業保護政策、ユーザーの現地調達シフト、為替水準、CO2 排出量削減の議論等、不安定な要素が大きい。

また、ターゲットとするセグメンテーションをどう考えるかという論点もあろう。現在の輸出の主要ターゲットである日系メーカーについては、今後の海外の部材調達戦略(現地調達、コスト重視、品質水準等)について、足許の収益環境や新興国戦略の中で、鋼材に求めるニーズを大きく変質化させることも想定される。他方、新興国の現地メーカーを対象とすると、日系メーカーが求めてきた程の高機能、高品質を必要としないことも考えられる。

仮に、こうしたことを前提とすると、これまで競争力の源泉であり、差別化の鍵であった研究開発力や生産管理技術については、対象とするターゲット如何によっては、今後数年の間に、その優位性を喪失する可能性も想定される。現在の技術格差を最大限に活かし、単なる輸出のみに依存しない中長期的な海外戦略を描く必要があるのではないか。

(素材チーム 井上 悌二郎)

[teiji.inoue@mizuho-cb.co.jp](mailto:teiji.inoue@mizuho-cb.co.jp)